



「図書館に行こうよ ―新米司書館長の図書館日記―」 002

Title : 花矢図書館にだけある本

❖ 便利な相互貸借

秋田県立図書館のホームページのトップに、「県内図書館資料横断検索」というアイコンがあります。ここでは、県内の公立図書館・室と大学図書館（秋田大・県立大・国際教養大）のOPAC（オンライン蔵書目録）^{オンライン}を結んでおり、一括して特定の図書館資料を検索することができます。読みたい本が市内の図書館にも県立図書館にもない場合、ここで検索してみてください。意外にヒットする確率が高いものです。県内の図書館は「相互貸借」つまり図書館同士がお互いに貸し借りすることの協定を結んでいます。市立図書館を通じて申し込んでください。新刊は発売から6ヵ月後とか貸出時期の制約はありますが、利用者の負担なく借りることができます。便利な世の中になったものですね。もっとも某市のように新刊は1年間市外に貸し出さないところもありますが。

大館市立図書館のOPACは数年前に完成しており、館内の端末では検索できましたが、家庭のパソコンなどから検索できるようになったのは25年4月に市立図書館がホームページを開設してからです。これにより県内横断検索にも参加することができましたが、残念ながら県内8市のうち最後発でした。

❖ 県内で花矢だけにある本

花矢図書館は蔵書1万5千冊ほどの、市立図書館でもっとも小さな図書館です。花岡川沿いにあり、県道68号線をはさんで花岡公民館と向かい合う平屋の建物です。小振りでも、児童図書コーナーは畳の部屋で寝転がって読めるし、鉾山文庫などの地域資料もそれなりに充実、そしてスタッフの温かい対応で、満足度調査ではとても評判の良い図書館です。こんな小さな図書館でも、県内でここにしかない本があったりするのが図書館の面白いところです。

例えば、東京やなぎ句会という昭和44年から続く俳句のグループがあります。宗匠が落語家の入船亭扇橋、メンバーには永六輔、江國滋、小沢昭一、大西信行、桂米朝、加藤武、矢野誠一、柳家小三治といった錚々たる面々が居並びます。大正末から昭和戦前生まれのメンバー構成なので、残念ながら江國さん、小沢さんは鬼籍に入りましたが、この句会、雑談がべらぼうに面白く、単行本が何冊か出版されています。俳句好きはもとより落語、芸能、演劇ファン必読とっていいでしょう。

東京やなぎ句会の最新刊が『友ありてこそ、五・七・五』（岩波書店、2013年12月発行）。この書名を県内横断検索に打ち込むと、唯一所蔵しているのが我らの花矢図書館。渋いね、どうも！（陽）